

「天国クラブ」

主任司祭 晴佐久昌英

ぼくの夢のひとつは、長生きして「いじわるじいさん」になることだ。むかし「いじわるばあさん」という漫画がはやったが、およそあんな感じの、じいさんバージョンである。

いじわるも、実は奥が深い。いじわるばあさんのいじわるだって、よく見れば現代社会への痛烈な異議申し立てになっていることに気づくはずだ。ぼくは、みんなが浮かれているお正月に杖の先にくくりつけた頭蓋骨を高く掲げて、「ご用心、ご用心！」と叫んで回った一休和尚のように、世の惰眠の目を覚まさせるような、いじわるじいさんになりたいのだ。

世の中は今や「元気な若者天国」である。経済優先・効率第一の、欲望うず巻く消費主義社会である。そんな世の中で生まれ育ち、まっとうな文化も伝統も信仰も知らない若者たちは、実は現代社会に飼いならされた奴隷であり、犠牲者なのだ。そんな彼らを救えるのは、今の世の中をおかしいと思える知恵と経験を持ち、忍耐とユーモアで浮世離れできる老人たちを置いて他にない。とはいえ、相手は洗脳されていて老人など目にも入らないだろうから、優しくいじわるして揺さぶりをかけたれり、上手に一困らせて気づきのチャンスを与えるのが正しい。

じいさんばあさんたちよ。遠慮を捨て、町に出よ。なるべく人々に関わって、世話になれ。臆せずやりたいことをやり、恐れずに言いたいことを言い、どこにでも出て行って、この世を「陽気な老人天国」にしようではないか。老人は、たとえ何もせずに座っているだけでも周囲の人々を救える秘跡的存在なのだから。

まずは、教会に集まって作戦会議をしよう。もうすぐ、だれでも立ち寄れる家庭的な「教会お茶の間」を司祭館に開設する。タクシーでも車椅子でも寝台車でもいい、しょっちゅう集まってお茶を飲み夢を語り「愛のいじわる作戦」を練り、この世の偽天国を揺るがす本物の天国を実現させようではないか。集会の名前もずばり「天国クラブ」とでもしたらいいだろう。

そしてぜひ、集会に行くときには「それじゃそろそろ天国に行くよ」などと言って、家族をぎょっとさせていただきたい。